
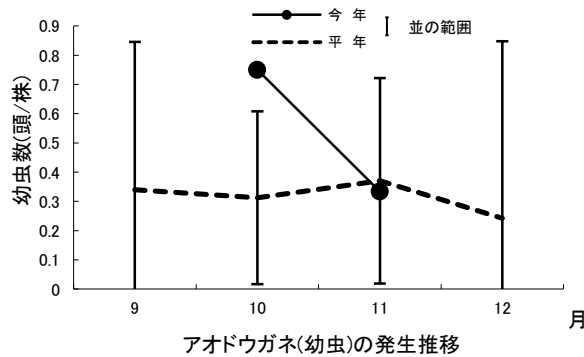


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① アオドウガネ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

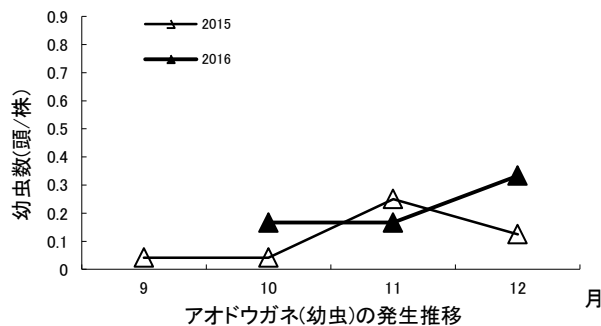
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.3頭（前年0.3頭、平年0.4頭）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

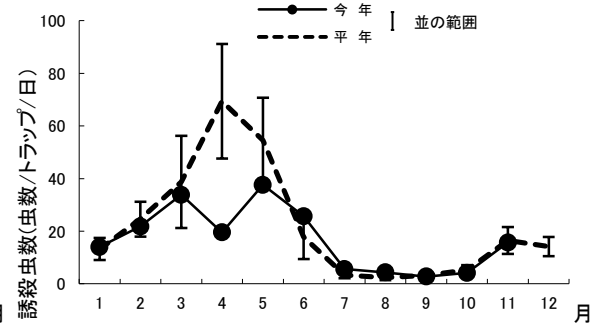
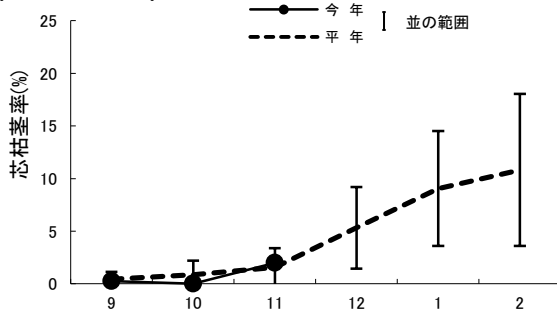
- ・ 成虫の発生時期である5月から7月に誘殺灯を設置して防除を行う。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

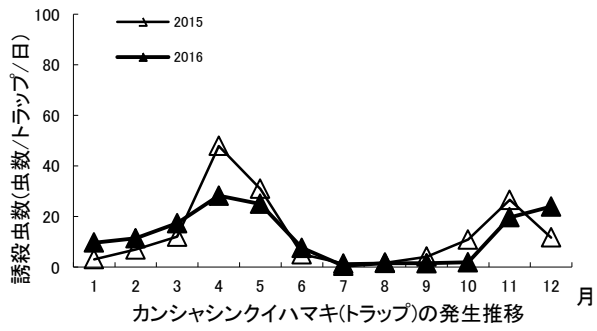
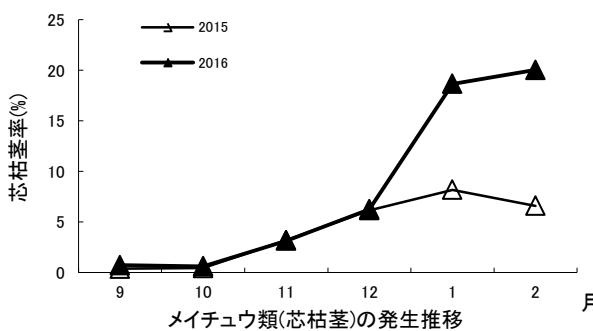
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は2.0% (前年3.2%、平年1.6%) と平年並であった。また、芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫のうち80%が本種であった。
- ・ 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は16.5頭 (前年19.7頭、平年15.7頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

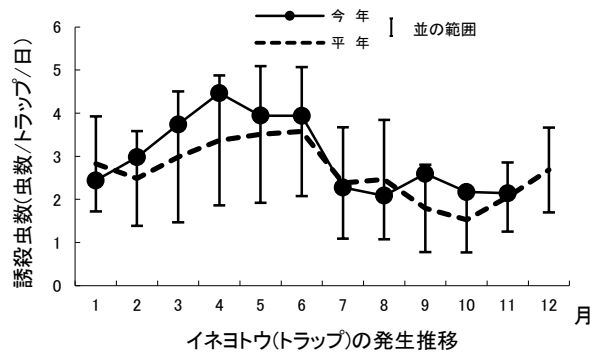
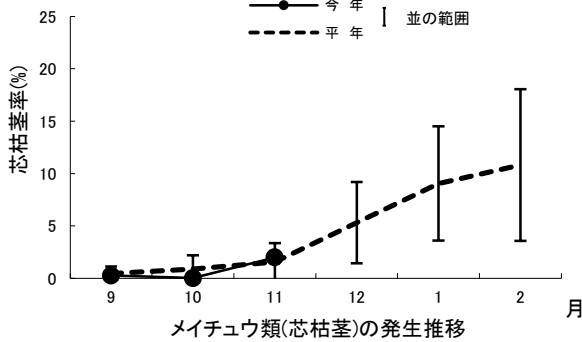
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

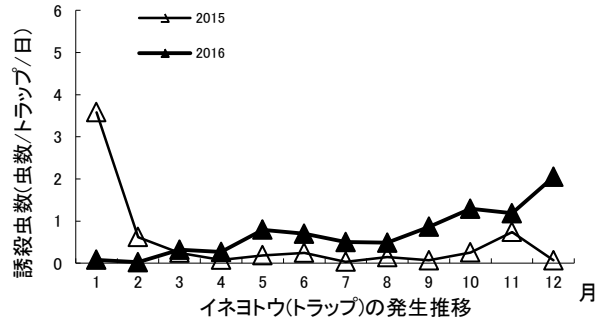
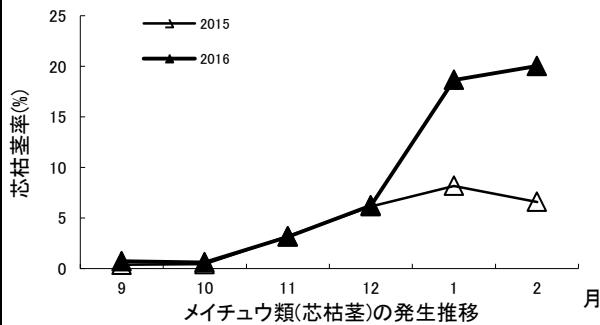
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は2.0% (前年3.2%、平年1.6%) と平年並であった。
- ・ 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.1頭 (前年1.2頭、平年2.1頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

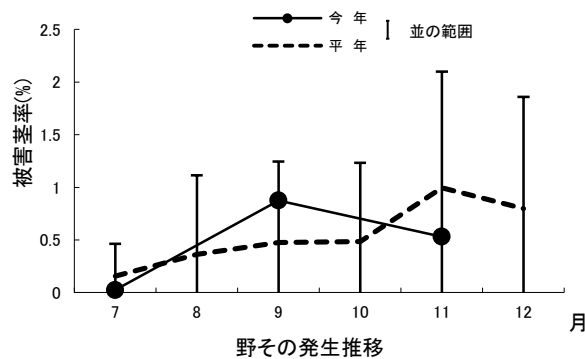
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	④ 野そ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

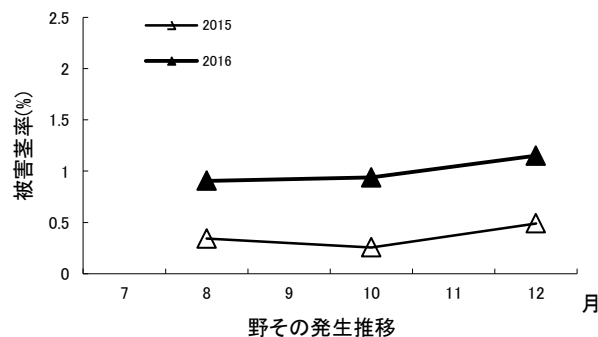
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、夏植ほ場における被害茎率は1.0%（平年0.5%）と平年並であったが、一部地域で多発した。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

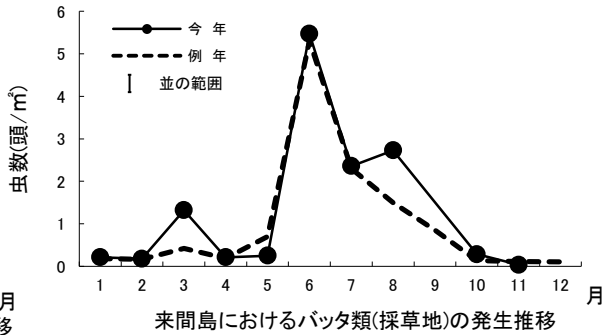
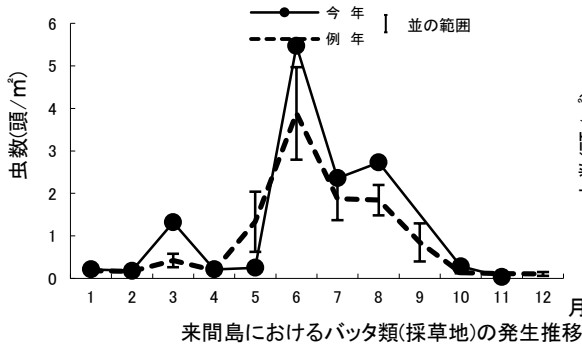
- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・ 野積みされた剥葉残さなどに巣を作ることから、野積みを行わない。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
11月の発生量（現況）	判定不可		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	来間島について、さとうきびほ場における成虫数の例年の発生推移から11月と同程度の発生量と考えられる。		

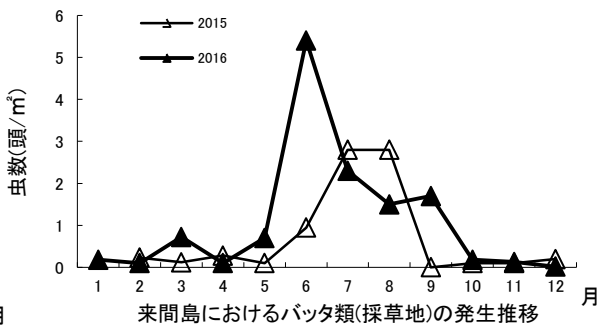
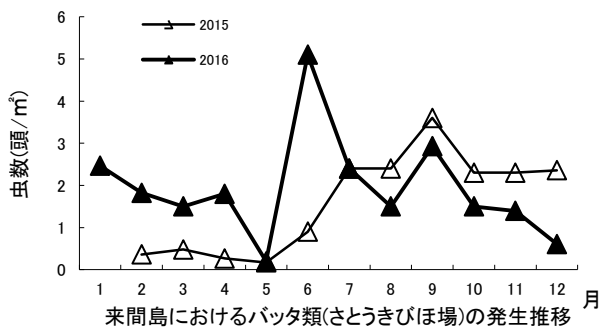
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の来間島での調査の結果、さとうきびほ場、採草地の平方メートル当たり虫数はそれぞれ、1.7頭、0.1頭未満であり、発生種は台湾ツチイナゴであった。
- ・ 防除員の報告によると、宮古島でヒゲマダライナゴ、台湾ツチイナゴが確認された。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。